

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：都市・地域整備局街路課

担当課長名：斉藤 親

事業名 補助第26号線限度額立体交差事業	事業区分	街路	事業主体	東京都	
起終点 自：東京都品川区小山台一丁目地内 至：東京都品川区小山五丁目地内	延長	1.3 km			
事業概要 本事業は、目黒駅付近から洗足駅付近の区間（約2.8 km）において、鉄道を高架及び地下化することにより、18箇所の踏切を除却（評価対象区間1,250 mで10箇所の踏切を除却）し、道路との立体交差化を図る事業である。本事業により、交通渋滞の解消が図られるとともに、道路・鉄道それぞれの安全性の向上や、これまで鉄道によって隔てられていた地域の一体化が実現する。					
H7年度事業化	H6年度都市計画決定	H7年度用地着手	H7年度工事着手		
全体事業費	427億円	事業進捗率	約68%	供用済延長	0 km
踏切遮断交通量	15万台時/日				
費用便益分析結果	B / C (事業全体) 1.0 (残事業)	総費用 (事業全体) 300億円 事業費：300億円 維持管理費： 億円	総便益 (事業全体) 297億円 走行時間短縮便益：233億円 走行費用減少便益：23億円 交通事故解消便益：0億円 高架下利用便益：41億円	基準年 平成15年	
事業の効果等 ・評価対象区間延長1,250mを含む目黒駅から洗足駅までの全長2,803mの区間を連続して立体交差化し、18箇所の踏切を除却（評価対象区間においては10箇所の踏切を除却）することで、交通渋滞や地域分断を解消するとともに、安全で快適なまちづくりを行い、沿線地域の都民生活と都市活動を向上させる。等					
関係する地方公共団体等の意見 補助第26号線（東急目蒲線）立体交差事業は、慢性的な交通渋滞の解消が図られると共に、道路・鉄道それぞれの安全性の向上やこれまで鉄道によって隔てられていた地域の一体化が実現し、沿線のまちづくりに大きく役立つことが期待されており、品川区・目黒区の両区長からも早期整備の要望を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 除却する10箇所の踏切のうち、補助第26号線など、慢性的な渋滞を引き起こしており、道路交通の円滑化を阻害している。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成7年9月に事業認可を取得し、現在、順調に事業が進捗している。用地については約93%用地取得が完了し、工事については、約68%の進捗で、駅部については躯体構築工事が順調に進捗している。残事業については、残り1件の用地取得であり、工事は、一般部を含めて躯体構築工事を行っていく。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 全線にわたり、躯体構築工事を進めており、平成17年度の地下化切替え予定である。					
施設の構造や工法の変更等 兵庫県南部地震に伴い新しい耐震設計基準への見直し。					
対応方針 事業継続					
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図					
<p style="text-align: center;">補助第26号限度額立体交差事業 L=2,803m</p> <p style="text-align: center;">評価対象区間 L=1,250m</p>					

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。